

インターバンクの声（2015年10月5日）

金曜日の米雇用統計に対する市場の事前予想は、大勢が波乱もなく非農業部門就業者数の伸びも悪くても20万人を割る程度と読んでいた。ところが結果は御存じの通り失業率こそ変化はなかったが、非農業部門就業者数の伸びが14万人そこそこまでに落ち込んでしまった。過去2ヵ月分も下方修正され、業種別変化もほぼ全般にわたって減少しているようだ。こうなると前回の連邦公開市場委員会から数日経った講演でようやく年内の利上げ開始の可能性に言及したイエレン議長発言での注釈部分が気になってくる。利上げの決定は、あくまでもこれまでの景気回復を確信させる条件の持続を掲げていたので、その面から考えると少なくとも10月28日のFOMCでの利上げ決定は消えたとの見方が強まるのも不思議ではない。雇用統計の結果に対するショックが大きかったせいで、そこまで注目する元気も薄れていたが、雇用統計後のISMニューヨーク指数や製造業受注などの数字も悪く、年内の利上げは遠のいたとする見方も広がっていたのも無理はないかも知れない。それよりも理解し難かったのは、数人の地区連銀総裁の年内利上げ支持発言があったにしろ、ドル円がニューヨーク市場の終盤に120円まで戻したことだ。週初アジア市場の反応が気になる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。